

学んで 話して 楽しい にほんご教室

夢気球だより

「夢気球だより」編集部 発行

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル2階 城陽市国際交流協会内

電話 0774-57-0713

ご意見・投稿先 niciyama0323@gaia.eonet.ne.jp <西山雅文>



「67名の仲間があつまる」

三周年記念

9/28

学習者・支援者交流会

秋晴れの9月28日(日)、城陽市国際交流協会にて「第3回学習者・支援者交流会」が67名の参加者を得て盛大に行われました。(内訳は、学習者25名・支援ボランティア21名・養成講座受講生15名・家族6名)
この交流会は夢気球発足後3周年を記念して開催されたもので、日本語ボランティアに係わりのある関係者や家族・友人らが一堂に会して(日頃はなかなか会えない)親睦を図ろうという試みです。



「少し緊張」

「好きなものは何ですか?」で『旅行等は多かったのですが、日本語の勉強が当初は圧倒的に少なくて大笑い』をしたものです。固さが取れた所で恒例の「学習者の自己紹介」です。初めて参加された方々は「学習者が短い期間に日本語をある程度話される現実」を目の当たりにして、「ビックリしたり感心されたり」して『これからの自分自身の日本語支援へのかかり方を各自が考えられた』こと



「皆さん、旅行が大好き」

第1回目は43名、第2回目が54名の参加で行われ、今回は「実施中の養成講座受講生の皆さんも是非に」という事で、参加者は60名超となる推測のもとに運営委員会で内容の検討も行い当日を迎えました。
片岡さんの総合司会で冒頭に代表の杉島さんから簡単な挨拶。続いて村田さんの参加者の緊張をほぐす「部屋の4隅」から開始です。「好きな日本の食べ物は何?」には「うどん・すし・ラーメン・てんぷら」で迷い、

「この後は「協会の久保さんの筑前琵琶による曲目の解説と演奏」です。学習者の中には初めて見る(聴く)人も多く、興味シンシン目を輝かせて実践に聞き入っておられました。
日本文化の紹介の後には「今回の交流会の目玉である、学習者/支援者の懇談」です。飲み物やお菓子をつまみながら8つの島に分散しての話し合いです。「話が余り弾んでいないテーブルがあれば、運営委員が入ろう」との事前打ち合わせがあったのですが空振りに終わりました。活発な話し合いは約50分も続きましたが、少し身体

も動かそうとの趣旨でリラックスして村上さんによる「しあわせな手をたたこう」を4番迄アクション付きで楽しみました。歌える方も多数おられて、文字通り大合唱となりました。



「とてもお似合いです」

への浴衣を着る指導とお披露目」が華やかに行われ、特に女性の学習者の晴れやかで少し得意そうな表情が印象的で、臨時の撮影会も行われました。
同じ国からの出身者間の情報交換等も行われた様で、2回目の交流も30分強で時間がきてしまし、賑やかに大人数での記念写真も撮り、第3回目の交流会も盛会の内に午後4時に閉会となりました。参加者の方々やスタッフの皆さんお疲れ様でした。

「今日の日はさようなら、又会う日まで」日本語の勉強・支援をエンジョイしましょう。(広報 村上弘芳)

今年度日本語支援ボランティア養成講座が夏の真つ最中の7月19日から24名の受講者で始まり、延べ10日間にわたって開かれ、秋の10月4日の講座最終日、市国際交流協会・辻会長から修了証が渡されました。

日本語支援ボランティア養成講座修了

7/19~10/4



「さあ、日本語支援のスタート!」

「模擬授業のあとで」
お疲れさまでした。(広報 渋谷陽)

「折紙上手く折れたよ」
森本トミー



「折紙上手く折れたよ」森本トミー

●役員募集
夢気球運営委員役員に欠員が生じたので役員を募集します。
■募集人数：1名
■募集期間：2014年11月30日(日)まで
■任期：前任者の残りの任期、2015年3月31日まで
関心のある方はどうか応募をお待ちしています。運営委員会までご連絡ください。(運営委員会)

日本語支援のボランティアの役割等のオリエンテーションから始まり、今年度は支援のための「日本語の基礎知識」を京都にほんごRingsの3人の講師による4講義を含めて、自前の養成講座で土曜日の半日の講座を積み上げました。最初受講者の戸惑いも見られた中でも、テーブルごとでワークショップを進める中で、年代を超えて日ごとにお互いの交流も広がりました。改めて日本語の文法のむずかしさを再認識したとの感想をチラホラ。後半、三つ模擬授業もあり、初めて接する会話に興味津々。頭を使う座学の講座内容から実際どう教えるのという方向に関心が向いてきました。最後は、実際の学習支援につながることを期待して、3回分の学習支援の実習。最終回、杉島代表から具体的に夢気球の活動における留意点などの説明があり、受講者から「ふり返り」として一言お聞きしました。「世界が広がった」「日本語を私自身がみなおす機会となった」「久しぶりに学生気分」「頭がついていけなかったけれど・・・」とそれぞれの思いをもらしながら、これから、「手助け」「協力」「役に立てたら」といった今後の支援につながる心強い発言も多くあり、盛り上がりの中で終了。

教室通信

「ばれっとJOYO」では、支援者を待っている学習者がたくさんいます。次号では又新しい教室を紹介できると思っています。(編集部 西山雅文)

 日曜(午前) ばれっとJOYO	 日曜(午前) ばれっとJOYO	 金曜 JIEA
 日曜(午後) ばれっとJOYO	 日曜(午前) ばれっとJOYO	 日曜(午前) ばれっとJOYO